

第5回 岡三SDGsセミナー

サステナブル・ファイナンス ～持続可能な社会の実現を目指して

2023年9月6日（水）

農林中央金庫
コーポレートデザイン部部长
野田 治男

農林中央金庫のご紹介

サステナビリティを巡る諸課題

農林中央金庫の取組み

農林中央金庫のブランドステートメントとパーパス

私たち農林中央金庫の仕事は、
ある日突然、世界を大きく変えるようなものではない。

なぜなら私たちが向き合う農林水産業とは、
自然を相手にし、一朝一夕に変化や成果を生み出すものではないから。
モノをつくるのではなく、「いのち」を生み、育て、繋いでいくものだから。

だからこそ私たちは、世界の金融市場で安定した利益をあげるという挑戦を続け、
規模の大小を問わず、地域と農林水産業を守る人々に尽くす金融機関として生きてきた。
そうして、100年の歴史を重ねてきた。

しかしこれからは、それだけでは十分とはいえない。
農林水産業が、時代の変化をとらえ発展し続ける産業になるためには、
私たちは、これまで以上の役割を果たさなければならない。

金融の知見を活かしながら、いままでの機能や範囲を超えた新たな貢献へ。
現場の課題の解決に、身をもって真摯に挑んでいく。
生産者はもちろん加工や流通、そして消費者と向き合い、その声に応えていく。

農林水産業から生まれる「いのち」は、
その先に連なるたくさんの「いのち」の営みに繋がっている。

いまこそ、私たち一人ひとりが、持てるすべてを発揮する時。
未来へと受け継がれるこの「いのち」の連鎖を、
より豊かで確かなものにするために。

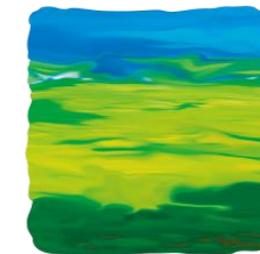
持てるすべてを「いのち」に向けて。

Dedicated to sustaining all life.

ステークホルダーのみなさまとともに、

農林水産業をはぐくみ、豊かな食とくらしの未来をつくり、

持続可能な地球環境に貢献していきます

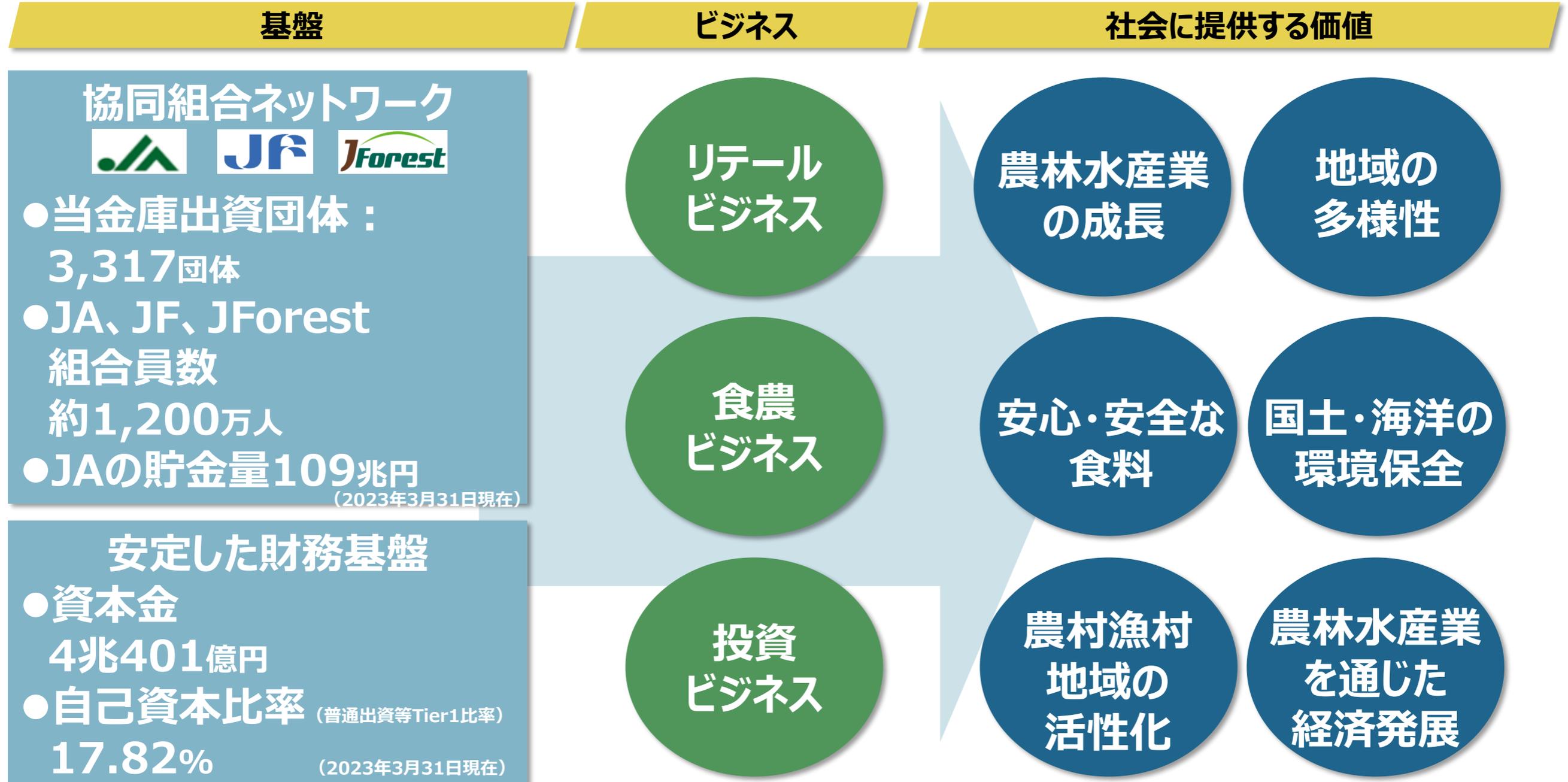


NORINCHUKIN

農林中央金庫

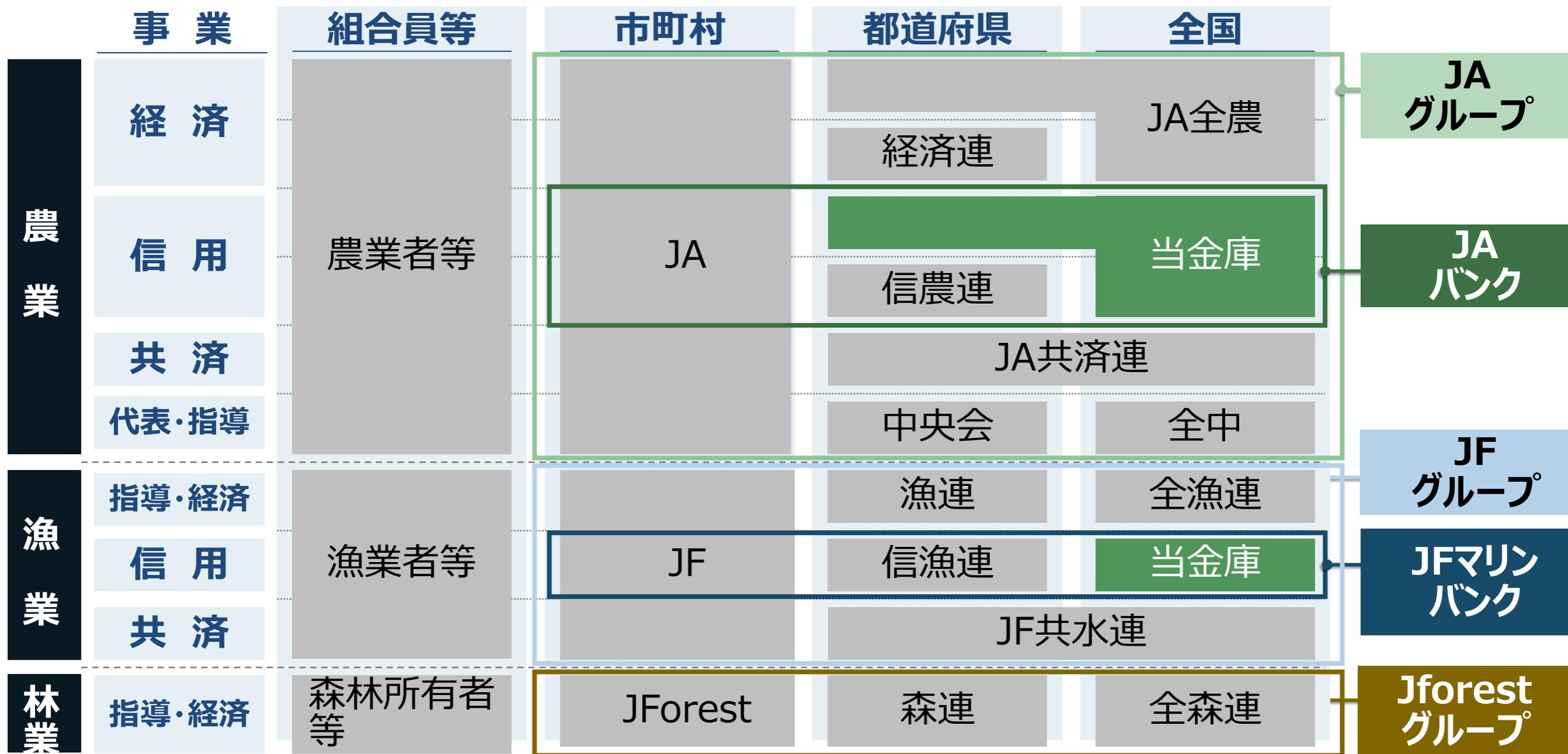
農林中央金庫の組織概要

■農林中央金庫は第一次産業にかかると協同組合を基盤とする金融機関



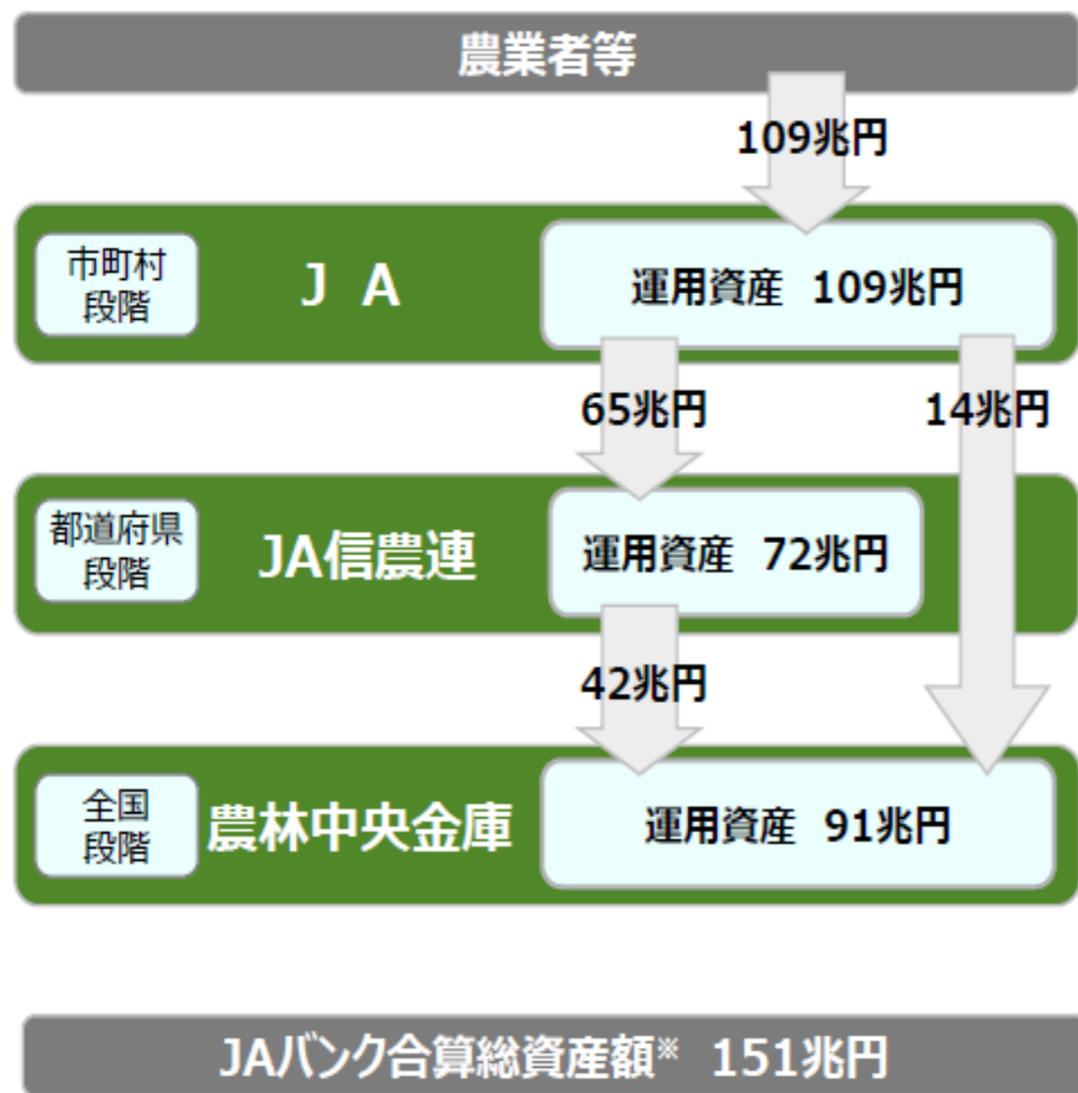
(ご参考) 系統組織の概要と当金庫の位置づけ

■農林水産業の協同組合が担う幅広い事業のうち、信用＝金融事業の全国機関という位置づけ



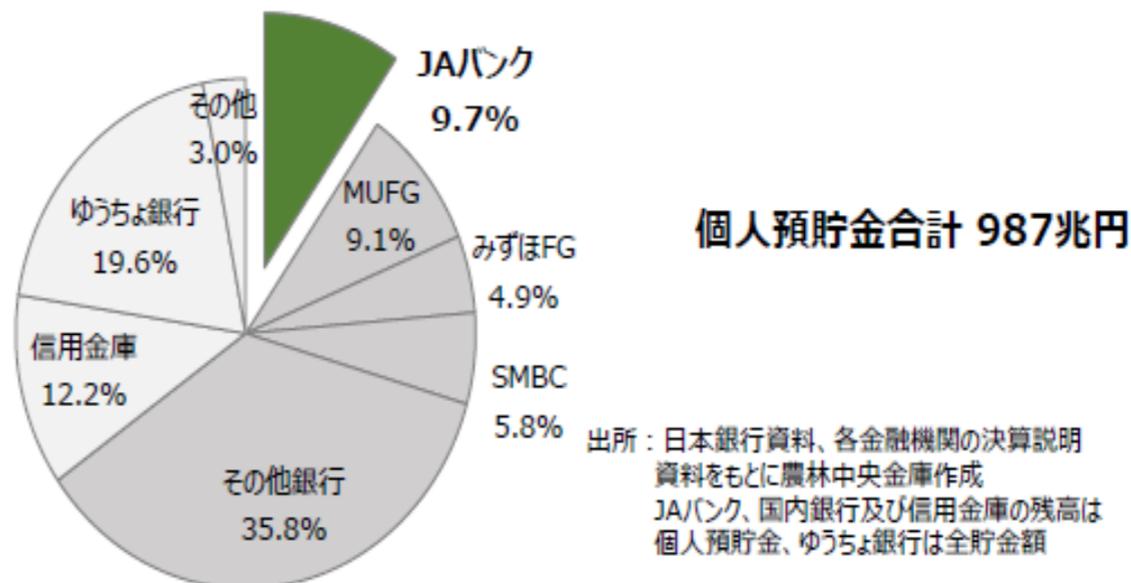
(ご参考) JAバンクの事業規模

JAバンクにおける預貯金の流れ (2023年3月末)



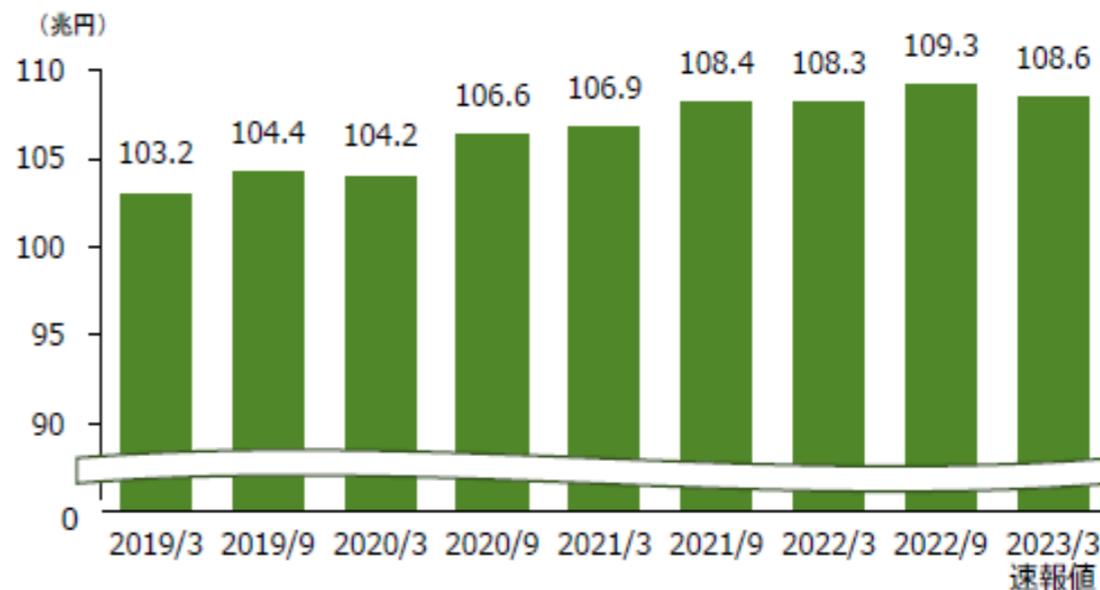
* 合算総資産額：運用資産 - 預け金

国内個人預貯金残高シェア (2022年9月末)



※四捨五入のため、各数値の合計が100%とならない場合があります

JA貯金残高の推移



農林中央金庫のご紹介

サステナビリティを巡る諸課題

農林中央金庫の取組み

環境・社会課題に対するグローバルなリスク認識の高まり

■グローバル企業が認識する経営上のリスク（世界経済フォーラム「The Global Risks Report」より）
 →上位に環境関連課題が続く。環境・社会課題に対するリスク認識の高まりは不可逆的

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
1位	非自発的 移民	異常気象	異常気象	異常気象	異常気象	異常気象	気候変動 緩和・適応の失敗	気候変動の緩和策 の失敗
2位	異常気象	非自発的 移民	自然災害	気候変動 緩和・適応の失敗	気候変動 緩和・適応の失敗	気候変動 緩和・適応の失敗	異常気象	気候変動への 対応策の失敗
3位	気候変動 緩和・適応の失敗	自然災害	サイバー 攻撃	自然災害	自然災害	人為的な 環境損害・災害	生物多様性の 喪失	自然災害と極端な 異常気象
4位	国家間 紛争	テロ攻撃	データ不正利用・ 窃盗	データ不正利用・ 窃盗	生物多様性の 喪失	感染症の広がり	社会的結束の 浸食	生物多様性の損失 や生態系の崩壊
5位	大規模な 自然災害	データ不正利用・ 窃盗	気候変動 緩和・適応の失敗	サイバー 攻撃	人為的な 環境損害・災害	生物多様性の喪 失	生活破綻	大規模な非自発的 移住

環境
 経済
 地政学
 社会
 テクノロジー

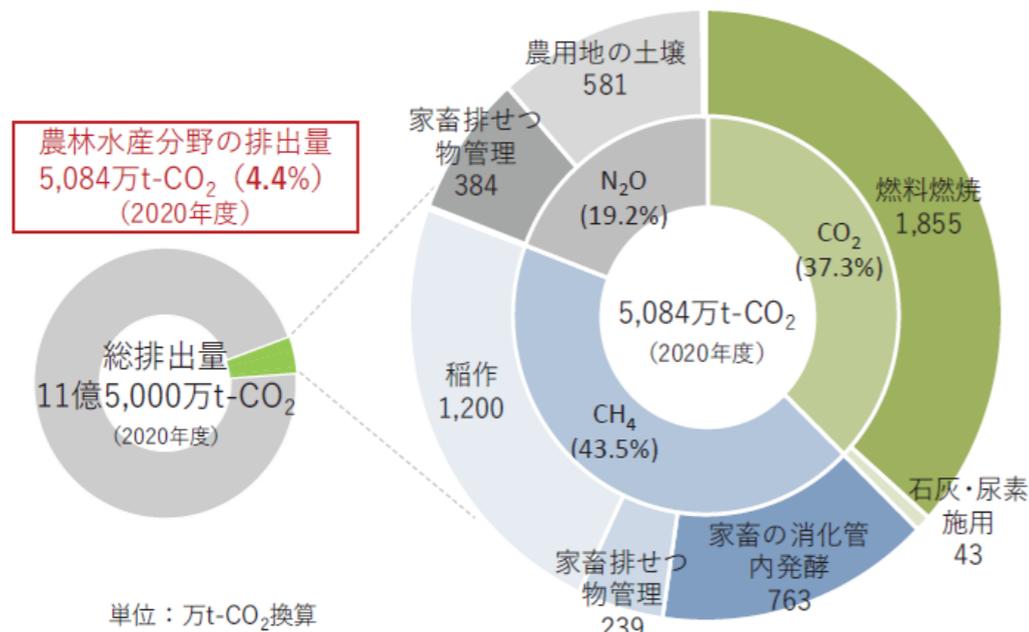
（出所） 世界経済フォーラム「The Global Risks Report」
 2016～2021年は向こう10年で発生の可能性が高いグローバルリスク、2022年以降は向こう10年で影響の大きいグローバルリスクの上位5位

企業活動と環境・社会の関係性

■ 企業等は、事業活動を通じて環境・社会に影響を与えると同時に、リスク・機会として環境・社会から影響を受けている



(例：与える影響)
日本の農林水産分野のGHG排出量



* 温室効果は、CO₂に比べメタンで25倍、N₂Oでは298倍。
出典：国立環境研究所温室効果ガスインベントリオフィス「日本の温室効果ガス排出量データ」を基に農林水産省作成

(例：受ける影響)
気候変動による農業被害-災害の激甚化



浸水したキュウリ
(令和元年8月の前線に伴う大雨)



被災したガラスハウス
(令和元年房総半島台風)

(出所) 農林水産省HP

過疎化
担い手不足

地球温暖化

人権問題

食料安全保障

森林資源の
管理・活用

生物多様性の喪失
自然資本の毀損

海洋資源の
管理・活用

これらの課題は、農林中央金庫の事業基盤が抱える課題そのもの



事業（ビジネス）を通じて、課題解決に取り組む

農林中央金庫のご紹介

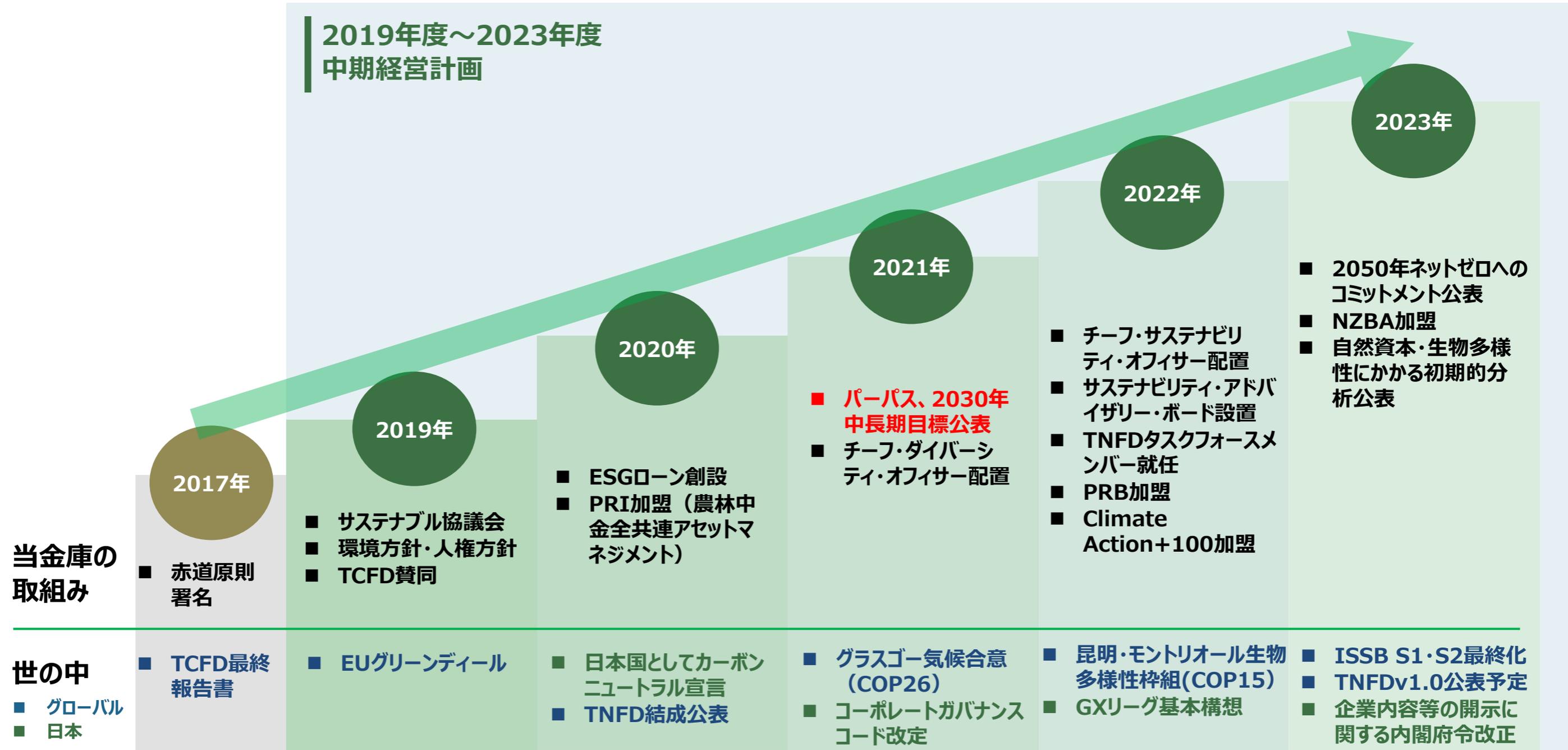
サステナビリティを巡る諸課題

農林中央金庫の取組み

- サステナブル推進にかかる方針と体制
- 取組事例

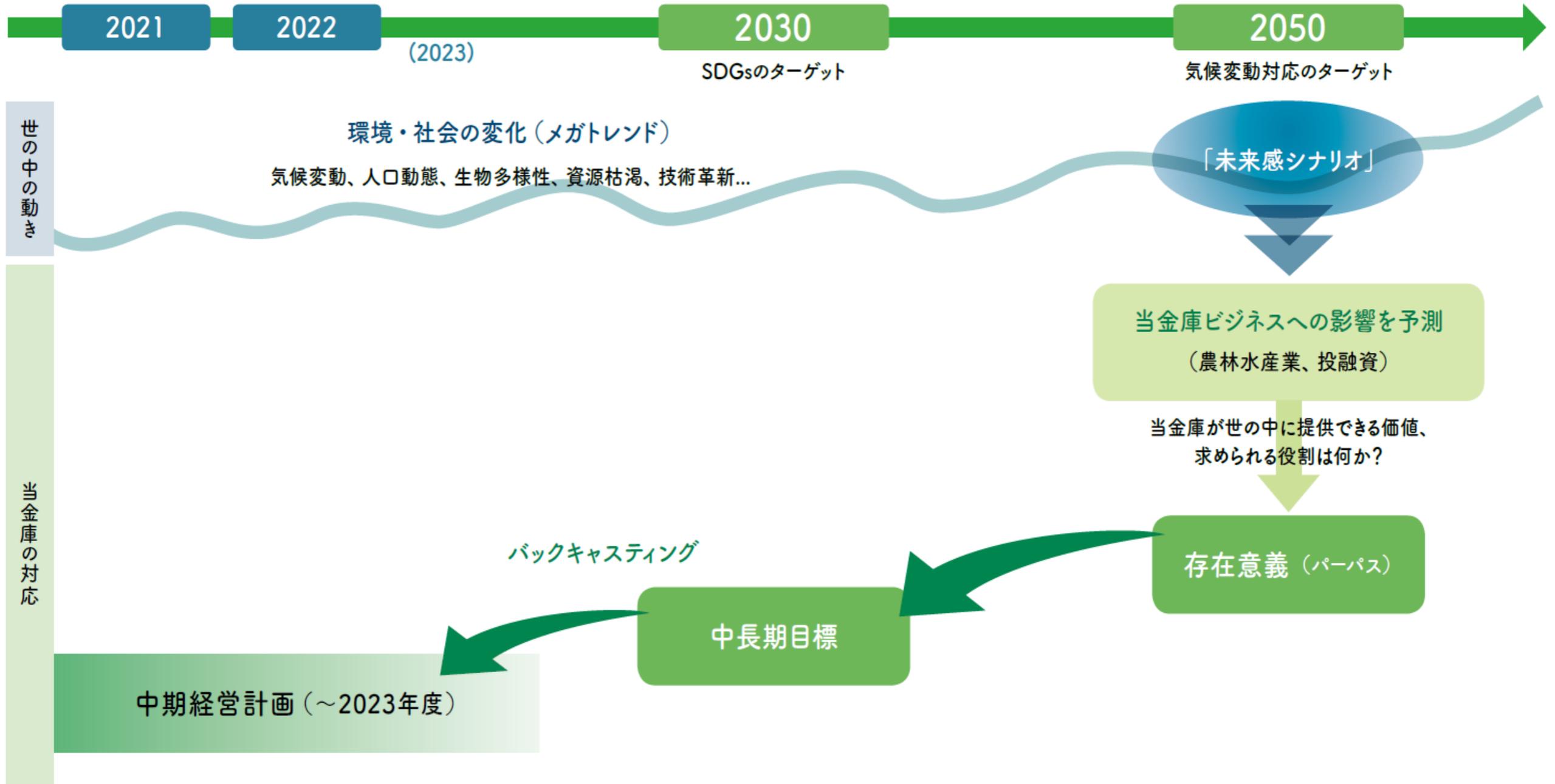
農林中央金庫のサステナブル経営の歩み

2019年度～2023年度
中期経営計画



存在意義(パーパス) と中長期目標の策定

■ 2050年の世の中を見通し、当金庫のあるべき姿(パーパス)、世の中に提供できる価値や役割を再定義



存在意義(パーパス) と中長期目標の策定

■ 全役員による議論、職員意見を通じてパーパスを策定

議論のプロセス

- ① 環境・社会の中長期的変化を踏まえた、2050年の「未来感シナリオ」を共有
- ② 「未来感シナリオ」が当金庫の基盤やビジネス(農林水産業、投融資)に与える影響予測
- ③ ②に対し、当金庫の世の中への提供価値、求められる役割は何か＝「存在意義」を議論
- ④ 「存在意義」を踏まえ、2030年に達成すべきゴール＝「中長期目標」を議論
- ⑤ 経営計画に反映(「農林中央金庫の目指す姿」の再整理)



役員による議論の様子(月1回のワークショップ)

■ 農林中央金庫としての優先課題

A 気候変動リスクの低減・脱炭素社会実現に向けた貢献

B 農林水産業の生産基盤維持、安心・安全な食料確保実現に向けた
持続可能な農林水産業およびバリューチェーンへの貢献

C 少子高齢化・過疎化が進展する中での地域コミュニティの維持に向けた貢献

持てるすべてを「いのち」に向けて。

ステークホルダーのみなさまとともに、
農林水産業をはぐくみ、豊かな食とくらしの未来をつくり、
持続可能な地球環境に貢献していきます

“いのち”の連鎖

人のいのち



生物のいのち



星のいのち



中長期目標

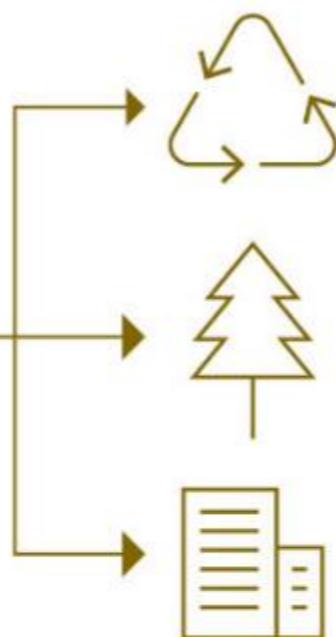
■ パーパス実現に向けた中長期目標として、2050年ネットゼロや農林水産業所得の増加等を設定



投融資先等のGHG排出量削減
2050年ネットゼロ



農林水産業者所得の増加



農林中央金庫投融資先のGHG排出量削減

2050年ネットゼロに向けた2030年度中間目標(基準年:2019年度)

融資 電力セクター 138~165gCO₂e/kWh(順次セクター拡大)

投資 投資一単位あたりの排出量▲49%

会員と一体となった森林由来のCO₂吸収

2030年度時点で900万 t-CO₂/年

農林中央金庫拠点のGHG排出量削減

2030年度までにネットゼロ



サステナブル・ファイナンス

2030年度までに新規実行額10兆円

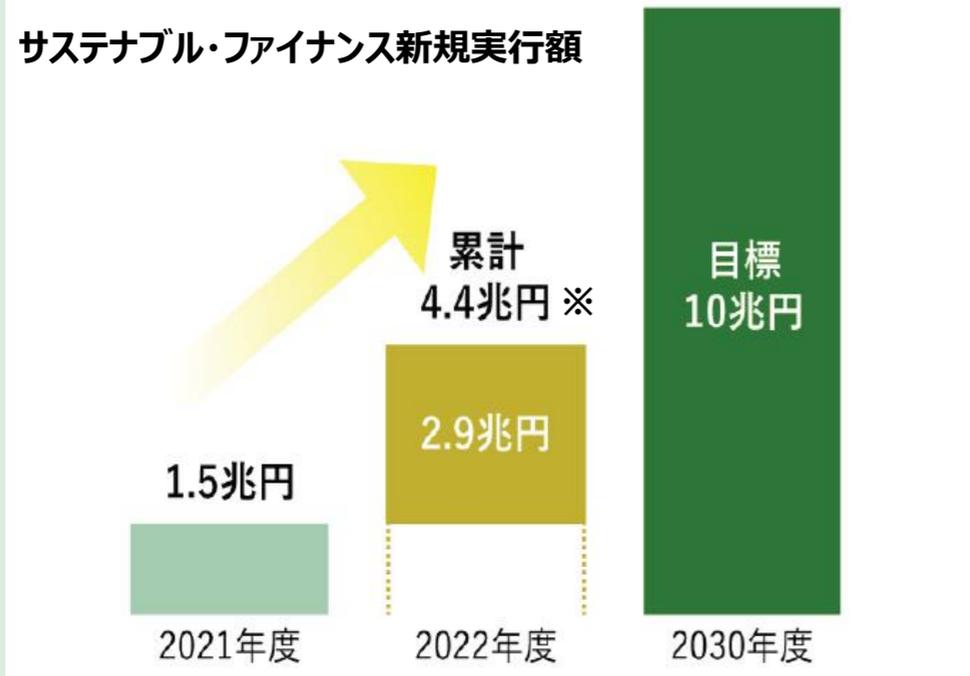


女性管理者比率

(2030年度までに13%、2040年度までに30%)

ビジネス機会獲得

■ 環境・社会課題解決に資するサステナブル・ファイナンスの実践



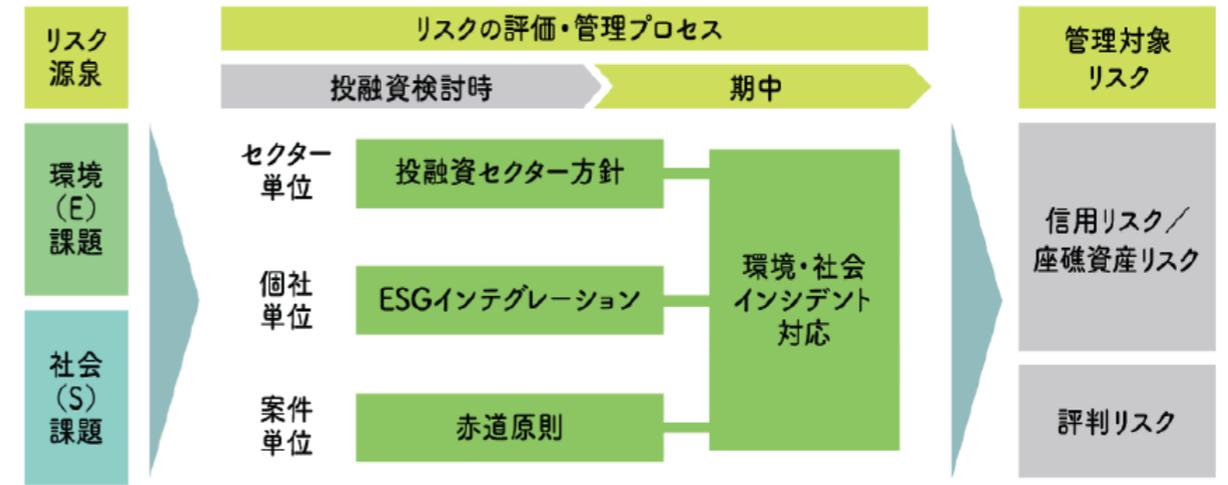
※アセット別の主な内訳

市場運用資産等	約2.3兆円
プロジェクトファイナンス	約1.2兆円
ESGローン	約0.7兆円
グリーンボンド・グリーン預金	約0.3兆円

リスク管理

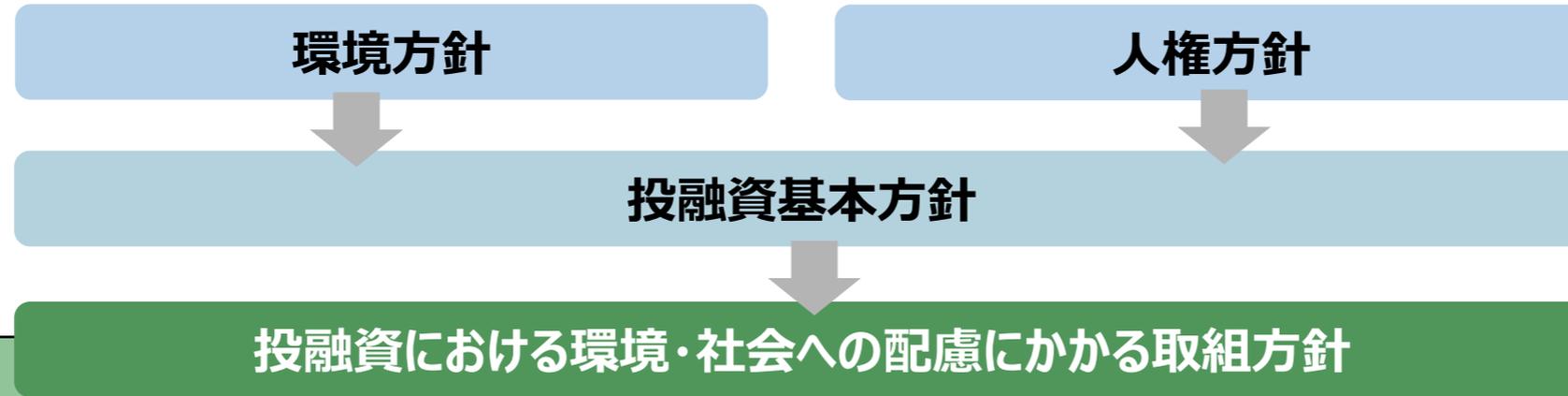
■ 投融資の判断を行う際に、環境・社会リスクを評価検討

環境・社会リスク管理体制のフレームワーク



ステークホルダー
エンゲージメント
の推進

- 環境・社会課題解決に向けた基本方針として、「環境方針」「人権方針」を制定
- 環境・社会に対して重大な負の影響を与える可能性が高いテーマおよびセクターに関して適切なリスク管理を実施



	投融資における環境・社会への配慮にかかる取組方針	
	セクター横断的な項目	特定セクターにかかる項目
投融資を禁止する事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ ユネスコ指定の世界遺産へ負の影響を及ぼす事業 ■ ラムサール条約指定湿地へ負の影響を及ぼす事業 ■ 児童労働、強制労働を行っている事業 	<ul style="list-style-type: none"> ■ クラスタ弾製造セクター
投融資に際して特に留意が必要な事業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保護価値の高い地域へ負の影響を及ぼす事業 ■ 先住民族の地域社会へ負の影響を及ぼす事業 ■ 非自発的住民移転につながる土地収用を伴う事業 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 石炭火力発電セクター ■ 石炭採掘セクター ■ パーム油セクター ■ 森林セクター ■ 非人道兵器セクター ■ 石油・ガスセクター ■ 大規模農園セクター ■ 大規模水力発電セクター

農林中央金庫のご紹介

サステナビリティの諸課題

農林中央金庫の方針・体制と取組み

- － サステナブル推進にかかる方針と体制
- － 取組事例

ESGローン

主な特徴

サステナビリティ・リンク・ローン

貸出先の経営戦略上のサステナビリティ目標とサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（SPTs）の整合性を評価したうえで、SPTs 達成状況に連動した貸出条件等のインセンティブを付与

グリーン・ローン

グリーン事業に資金用途を限定

ソーシャル・ローン

ソーシャル事業に資金用途を限定

サステナビリティ・ローン

グリーンかつソーシャル事業に資金用途を限定

トランジション・ローン

脱炭素社会の実現に向けた温室効果ガス削減の取組みを支援

ポジティブ・インパクト・ファイナンス

経済・社会・環境にもたらすインパクトを分析・評価し、ネガティブインパクトの緩和とポジティブインパクトの拡大に向けた継続的なエンゲージメントを重視

農業法人へのサステナブル・ファイナンス

- 投融资先のサステナビリティ向上、脱炭素支援のためのファイナンスを幅広く提供
- 当金庫初となる農業法人向けのサステナビリティ・リンク・ローン（SLL）を環境負荷軽減農法に取り組む「鈴生」へ対応

当社概要と課題

当社概要

- ・ 慣行農法対比で化学肥料施肥量削減等を進める農業法人（野菜と果実の生産と販売）

課題

- ・ GHGの計測手法がわからない（数値見える化できない）
- ・ 具体的な削減手法がわからない



GHG計測サポート×サステナビリティ・リンク・ローン（SLL）実行

スコープ3までのGHG計測サポート

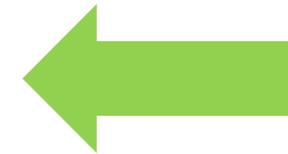
GHG計測の
意欲形成

GHGコンサル
実施

大企業への
ニーズヒアリング

農業法人初のサステナビリティ・リンク・ローン（SLL）対応

SLL 30百万円を対応



NORINCHUKIN

SPT（サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット）

対象Scope

Scope1とScope2の合計

GHG削減目標

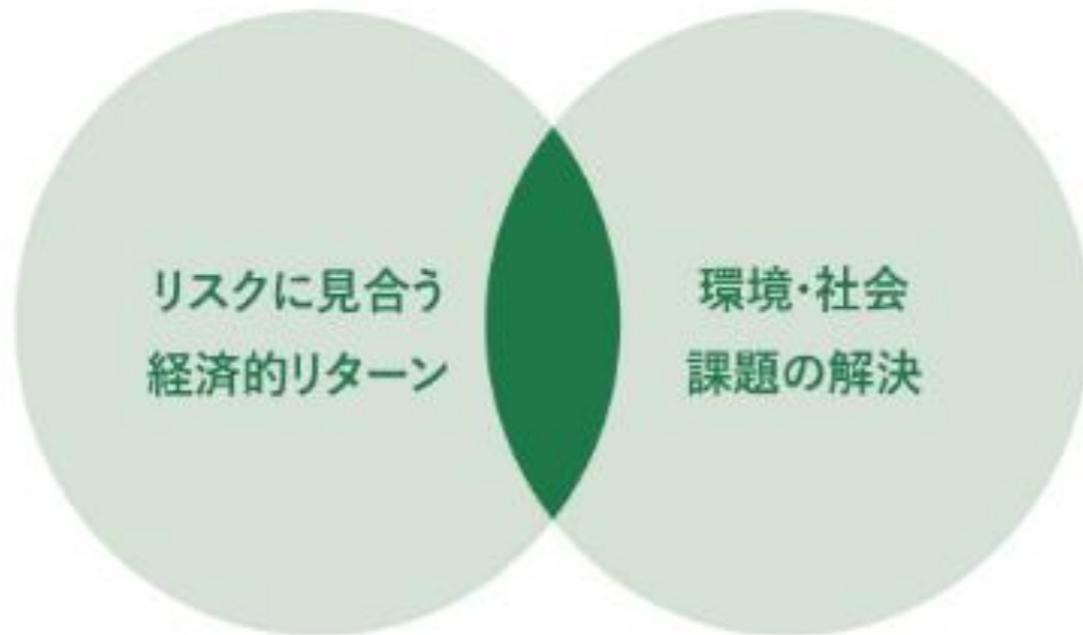
2021/8期実績比で2.48%の削減

SPTs（サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット）
達成状況に応じて、貸出条件（金利等）が変動

インパクト投融資への取組み

- 適切な経済的リターンを得ながら、環境・社会にポジティブなインパクトを創出するインパクト投融資への関心が高まっている

インパクト投融資のイメージ
(経済的リターンと環境・社会課題解決の両立)



主な取組み

- グリーンボンド発行により調達した資金を再生可能エネルギー事業など環境改善に資する事業への投融資に充当。当該投融資が創出したインパクトを計測・開示 (CO2削減: 年間64万トン)
- グループ会社の農林中金全共連アセットマネジメント(株)とともに、最大150億円 (2022年度) のインパクト・プライベート・エクイティ・ファンド投資を可能とする投資プログラムを開始 (気候変動のほか、教育機会や医療・福祉等へのポジティブなインパクト創出を目指す)

インパクト志向金融宣言

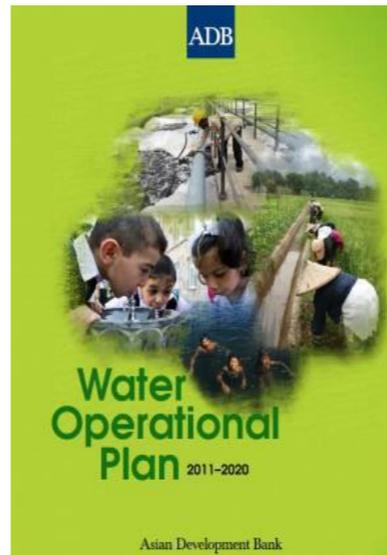
- 当金庫は、2022年11月1日付で署名 (2023年5月1日時点で51機関が署名)
- インパクト志向の投融資の実践を推進していくイニシアティブ

① ウォーターボンド

発行体：アジア開発銀行
年限：10年
通貨：AUD
金額：200mil



■調達資金は、水業務計画（2011～2020年）の優先分野に従って実施されるウォーター・ファイナンス・プログラムにおけるプロジェクトに充当され、主にアジア・太平洋地域の事業に利用されている。



② ジェンダーボンド

発行体：世界銀行（国際復興開発銀行）
年限：10年
通貨：USD
金額：100mil



雇用



新たな生計手段の創出による
遊牧民女性の所得向上

女性事業主向けの
マイクロファイナンスの増加



教育



高等教育へのアクセス強化

人権・生活の質向上

人身取引被害ホットラインの設置
による被害の予防・被害者の救出



女性専用車両の導入による
安全な移動手段確保

再エネ

洋上風力・太陽光中心に融資

英国・大陸欧州の洋上風力や海底送電線をはじめ、中東・日本における太陽光発電所案件に融資を実施。



Westermost Rough
(英国洋上風力発電案件)

公共施設・設備

学校・病院案件等に融資

豪州・英国・中東の学校や病院をはじめ、英国・アイルランドにおけるソーシャルハウジング(公営住宅)に融資を実施。

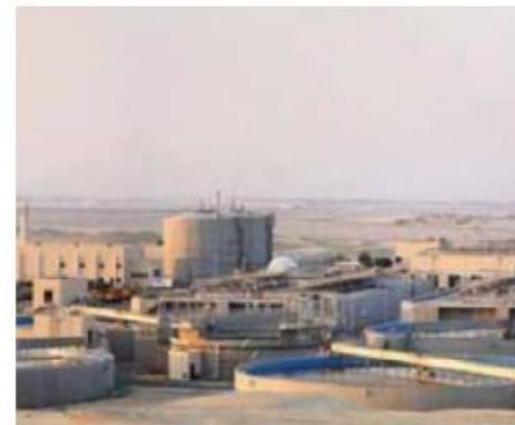


Irish Social Housing
(アイルランド公営住宅案件)

水関連

淡水化や下水処理案件に融資

豪州や中東の水処理案件(発電海水淡水化・海水淡水化・下水処理等)に融資を実施。



ISTP 2
(アブダビ下水処理案件)

交通インフラ

地下鉄・LRT案件等に融資

豪州地下鉄・カナダ路面電車プロジェクト等に融資(市内における交通量の削減)。

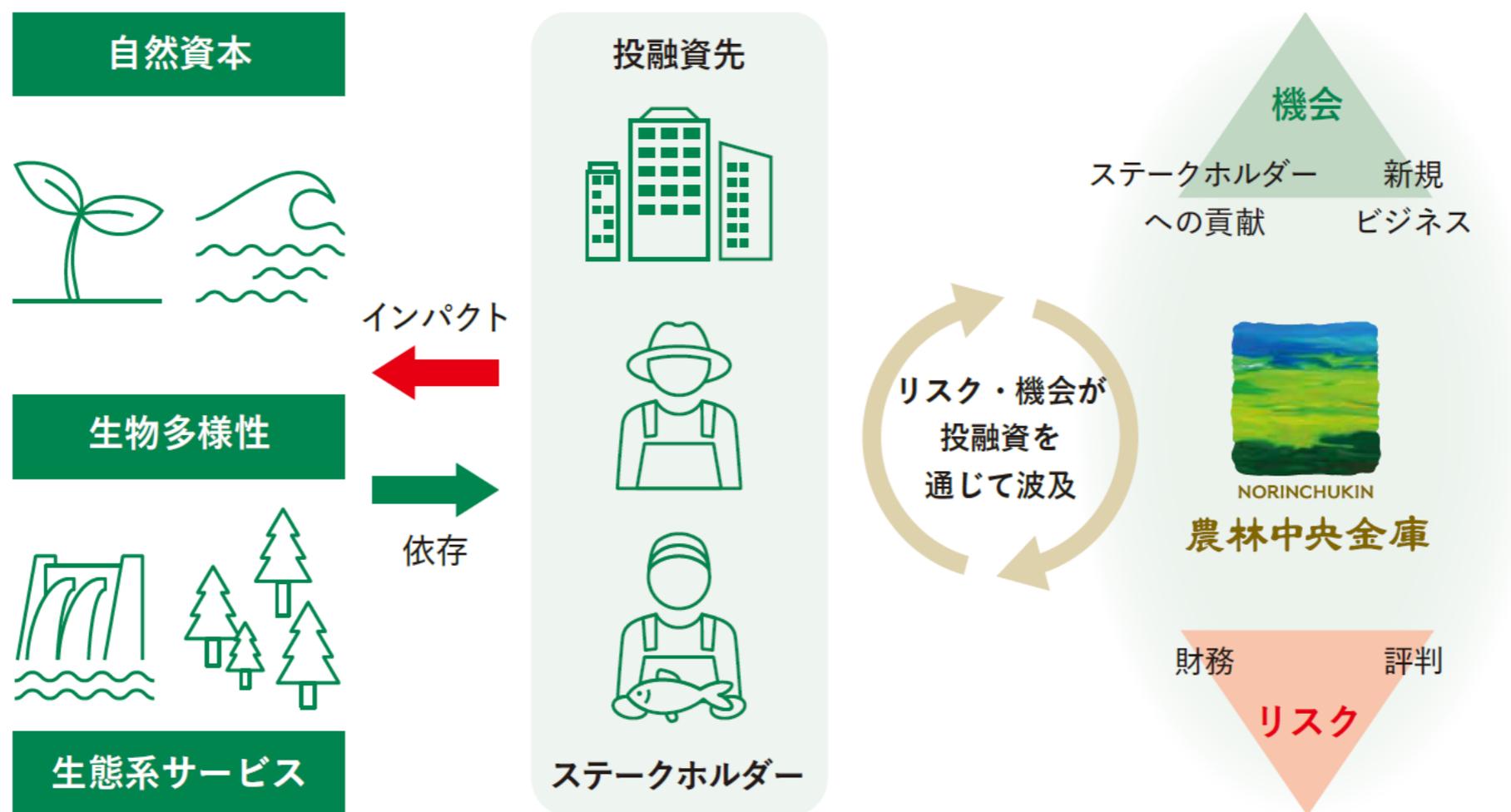


Sydney Metro NW
(豪州地下鉄案件)

自然資本・生物多様性テーマへの対応

- 自然資本・生物多様性は、一層重要視される環境テーマのひとつ
- 投融資先による自然資本・生物多様性への依存とインパクトが、リスク・機会として当金庫に波及

自然資本・生物多様性と当金庫の関係性（イメージ）



生物多様性の保全の啓発を目的とした投資

- 世界銀行が「生物多様性の保全の啓発」を目的に発行した債券への投資（約267億円）



本債券で調達された資金活用プロジェクト事例

- 【ブラジル】 生息地の復元や低炭素農業に関連する技術支援を通じて 4千人の土地所有者や農業生産者の低炭素農業を支援
- 【トルコ】 森林景観の回復・雇用の創出・持続可能な農業のためのトレーニング・灌漑と水供給の改善を実現する回復力の高いインフラ構築等を実施

※本債券で調達された資金の活用が、上記プロジェクトまたはその分野に限定されるものではない

国内金融機関によるアライアンス

- ネイチャーポジティブ転換の促進・支援を目的として、国内金融機関※でFANPS（Finance Alliance for Nature Positive Solutions）を立ち上げ

※ 三井住友FG、MS&ADインシュアランスグループHD、日本政策投資銀行、農林中央金庫



気候変動と自然資本・生物多様性の同時解決に向けた取組み_鳥取ブルーカーボンPJ

- ムラサキウニ増殖に伴う磯焼け問題について、鳥取県・鳥取県漁協・日本財団と連携し、鳥取ブルーカーボンPJを展開
- 藻場によるブルーカーボン効果（GHG削減）と水産資源の回復を図る（将来的なクレジット化も企図）

課題

ムラサキウニの過度な繁殖による、海藻が減少（磯焼け）。
（結果としてウニの身入りも小さくなり商品価値毀損）



対応

ウニの駆除・畜養を通じた藻場再生やブルーカーボン組成、ウニの商品化を通じた教育の場提供や地域活性化

組織概要



農林中央金庫



ブルーカーボンの取組み



ウニの駆除を通じた藻場の再生

- 磯焼けの原因となるムラサキウニを駆除
- 駆除は、漁業者だけでなく、ボランティアダイバー等も担う

- 藻場回復でブルーカーボン（GHG削減）
- 生物多様性の維持



駆除したウニの蓄養
ウニのメニュー開発

- 駆除するムラサキウニの一部を、県内農協組合員らと連携しつつ農作物残渣を餌として身入りをよくし、駆除ウニの蓄養
- 二十世紀ナシを餌にするプランも

- ウニ等を活用したメニュー・加工品開発



学校給食・飲食店を通じた取組み発信

- 学校給食やイベント等、さまざまなチャネルで成果品を海のメッセージとともに展開

- 磯焼けやブルーカーボンへの課題・意識を全国的に一層高める

高校生向け授業



出所 農林中央金庫提供

とっとり海のごちそう祭り



出所 農林中央金庫提供

免責事項

- 本資料は情報提供を目的として作成されたものです。
- 本資料は作成時点で作成者が信頼に足ると判断した情報をもとに作成されておりますが、情報の正確性・完全性を保証するものでもないことから、掲載された情報等を用いたことによって生じた損失については一切の責任を負いかねます。
- 本資料の内容は個別の状況に照らして妥当または適切であることを保証するものではありません。本資料に記載された内容の実施に際しては、これらの事項について妥当とされる専門家に助言を求めることが必要です。
- 農林中央金庫の書面による許可なく本資料を第三者へ開示・複製・配布はなされませんようお願いいたします。
- 農林中央金庫およびグループ会社のアドバイザリーサービス、投融資を受けるにあたっては所定の審査、手続きが必要となり、ご希望に添えない場合もありますのであらかじめご了承ください。